

## 不戦ネットのこれまでと今

2014年12月は、2015年の敗戦70年＝戦後70年を前にして、不戦ネットの活動開始20年に当たり、運動の再点検が必要となりました。

課題がなければ解散、あればもう1年やり続けるということで歩んできた20年です。30代が50代に、40代が60代に変わりました。課題は山積みです。ならばやり続けるしかありません。

呼びかけに応じ、一緒に活動し、協力してくれた皆様とともに課題を検討し、新たな飛躍を一緒に追求していきたいと思います。代表は、水田代表の次を受け継ぐにふさわしい人として、飯島滋明さんをお願いしました。総会に出されたネットのこれまでの取り組みと今の文章を掲載します。

### 1994年～1997年

(「95年問題」、沖縄を想う会)

1994年6月に発足した村山首相の自社政権時代の1994年12月に不戦へのネットワークは活動を開始します。その直後の1995年、1月17日阪神大震災、3月20日地下鉄オウムサリン事件、そして9月3日沖縄少女暴行事件、12月8日ブルトニウム原発のナトリウム爆発事件。これらの事件は、20年後の今に直接関係しています。95年問題とは、敗戦から50年、積み残しになってきた戦争責任問題と戦後補償問題の解決の年にすること、カンボジアPKO等をテコにした海外派兵の動きを止めることに集約されました。

毎月の連続講座を続ける中で、9月3日の少女暴行事件に対する沖縄の動き、8万人が集まった10,21県民集会。私たちは「沖縄問題」の仕切り直しとして沖縄県人会やキリスト教の人々とともに「沖縄を想う会」を作り、翌1月14日の白川公園の集会で「1万人集会」の実現に集中しました。ここでの経緯がその後の不戦ネットの自信と確信の原点となりました。

「戦争責任と戦後補償」の問題意識は、「旧日本軍による細菌戦の実相を明らかにする会」、ノーモア南京名古屋の会とともに、南京大虐殺60カ年に作った「南京メモリアルソサエティ」などの活動につながっていきました。98年から「平和のための戦争展」に参加を開始し、これは現在16年目になります。

### 1997年～2000年

(反戦平和運動、地域でできる戦争非協力)

97年に日米防衛協力のための指針が改定され(日米新ガイドライン)、朝鮮半島に対する日米軍事協力の強化が進みます。有事法としての「周辺事態法」の準備に対し、不戦ネットは反戦平和団体としてネットワークを開始します。今につながる不戦ネットの成立と言えます。

学習会を積み重ね、他団体への呼びかけ、集会デモへつなげていくという不戦ネットの活動のスタイルとなりました。周辺事態法成立後、私たちは「地域でできる戦争非協力」のスローガンで、改めて小牧基地、守山第10師団、春日井の施設部隊、県下の各軍需産業に注目し、申し入れ行動を繰り返しました。この活動がやがて9・11以降の活動に役立つこととなります。

人々の安保防衛問題への関心が低下するに比例して、私たちには必ず「引き続きの課題がある」ことを確認し、協力し支援をしてくれる人々がいることでもう一年続けるという結論が今まで続いてきました。

### 2000年～2009年

(ピースアクション)

2000年の沖縄サミットに反対する共同集会で初めてピースアクションの名前を付けました。東海民衆センターの中心メンバーのふたりが、ネットの事務所を訪問してくれて、サミット反対の共同行動をやらうと呼びかけ、私たちは即座に賛意を表明しました。この共同行動がピースアクション運動として9・11以降につながっていきます。

2001年9月11日のアメリカへのテロに対するアメリカによる戦争準備に対して、私たちはいくつかのグループや個人の集まりの中で「テロも戦争

も反対ピースアクション」を結成します。ブッシュ政権を支持する小泉首相は、素早くテロ対策特措法を作り、インド洋での給油活動に海上自衛隊を派兵しました。ピースアクションの活動は、9月の下旬から始まり、休みなく毎週続け、この街宣活動は12月まで持続しました。

翌年、小泉政権による有事法制作りに対応するために「有事法制反対ピースアクション」と名前を変え、関心はアメリカのイラク攻撃へと集中します。3月20日、攻撃開始の前後6週間にわたって毎週集会とデモを続けました。新聞にはカラー写真でレインボーフラッグのデモが記事になり、中日新聞は私たちの宣伝紙になってくれているとの声もありました。ブッシュ政権は一ヶ月で勝利宣言をし、それが敗北への第一歩になるとは誰も予想だにしませんでした。

小泉政権は、ブッシュへの軍事協力を「イラク特措法」として成立させ、航空自衛隊と陸上自衛隊のイラク派兵を強行します。小牧基地正門前での抗議行動や人間の鎖行動、守山第10師団の派兵期日が迫るとピースアクションはまた基地周辺での街宣を繰り返し、派兵期日の2月5日に合わせて、正門前での2週間にわたる座り込み行動に入りました。宿営地サマワにはロケット弾が打ち込まれ、「戦地へ行くな」という私たちの声は切実でした。

陸上自衛隊の撤退によって、輸送機C130を持つ小牧基地が唯一の派兵拠点となり、繰り返しの申し入れ行動や人間の鎖行動などで反対の意思を隊員に伝えました。

不戦ネットのメンバーも事務局として加わった「自衛隊イラク派兵差し止め訴訟」は、2008年4月17日、名古屋高裁で、航空自衛隊のイラクでの活動は憲法違反という判決を勝ち取りました。イラク反戦の締めくくりの集会は、白川公園で「攻撃6周年集会」として、ピースアクションと名古屋YWCA、自衛隊イラク派兵差し止め訴訟の会の共催で行いました。イラク反戦行動の終了とともに、ピースアクションは事実上の解散となりました。

海外派兵としては、「海賊対処法」により、今もジブチには海上自衛隊のP3C対潜哨戒機と、護衛艦2隻が活動し、南スーダンでは約500人の陸上自衛隊隊員がPKO部隊として派兵されています。

2010年～現在

(日韓連帯、沖縄、反原発、改憲問題)

この年から「金曜シネマ」をはじめました。日米安保50年ということでいろいろ企画を組み、やはり沖縄の問題も中心課題でした。2011年3月、東日本大震災と福島原発事故を受けて「未来につながる・東海ネット」に参加し、反核という立場で関わっています。

日韓連帯

1910年にいわゆる「韓国併合条約」を強要し、朝鮮半島を植民地支配した「韓国併合」から100年に当たる2010年、「良心と誠意をもって韓国朝鮮民衆と向きあい、真の友好と和解、平和的な関係構築の年にしたい」との思いで「韓国併合100年」東海行動の結成に参加し、集会やフィールドワーク、映画会など企画しました。

当初1年で解散のつもりでしたが、3月(3.1独立記念日)と9月(日朝平壤宣言)の2回は最低企画をするということで現在も継続しています。

そして、来年は日韓条約の締結から50年です。15年に及ぶ交渉の末締結されたこの条約は当初から多くの問題を含んでいると指摘されていました。日本と韓国の歴史的な問題と今を規定するこの問題を中心に取り組んでいく予定です。

沖縄

沖縄の問題は不戦ネットの一貫した課題です。2006年に辺野古でのTさんの逮捕をきっかけに、緊急の抗議行動を呼びかけその延長で辺野古の新基地建設反対と普天間基地撤去を課題に愛知の地で活動するグループがゆるやかにつながっていきこうということになり、紆余曲折を経ながらも現在の「あいち沖縄会議」につながっています。

今年11月16日の沖縄知事選の勝利は、名護市長選挙に続く沖縄民衆の闘いの大きな一歩です。何としても新基地建設を断念させることが必要です。キャンプシュワブゲート前の座り込みと車両の搬入・搬出に対する阻止行動は続いています。毎朝8時から60mのテントを設営し、ゲート前行動が終われば完全に解体する。この二つの作業だけでも大変ですが、沖縄の民衆はこれをもう何ヶ月も持続しています。地元の人々と全国からの人々の協力作業です。不戦ネットの中心軸の一つはやはり沖縄です。

## 改憲状況

そして、2012年12月に成立した第2時安倍政権のもとで、「改憲」の動きが加速される中、改憲問題は現在中心課題になっています。第2次安倍政権は、改憲への積極的な動きを見せています。2012年4月に出された自民党の改憲草案は、現憲法の中心である、平和主義、国民主権、基本的人権を破棄し、立憲主義を否定する内容です。当初憲法改正の手続き法である96条改憲を目指しそれが頓挫すると、立法改憲（国家安全保障基本法）や閣議決定での憲法解釈の変更を目指しました。同時に、武器輸出禁止を解禁し、秘密保護法の制定など、「戦争ができる国家」づくりに邁進しています。

今年7月1日の集団的自衛権行使容認の閣議決定、来年5月と予想される10月の新ガイドライン中間報告に基づく新ガイドラインの改悪、それを受けての有事諸法制の改悪、これらの変化により海外での自衛隊はより危険な任務を背負わされます。もはや「9条が自衛隊員の命を守っている」とは言えなくなります。しかも12月10日を持って「秘密保護法」が施行されました。集団的自衛権行使容認と秘密保護法は「戦争をする国」にとって両輪であると強くアピールしていく必要があります。

不戦ネットにとって、約10年間のピースアクションの経験は今も財産であり、教訓は山ほどあります。これからの事態に対して、この10年間共に活動してきた人々とさらに協力し合い、よその国のために海外でドンパチ（戦争）など絶対にさせない国づくりを目指しましょう。

そのために、不戦ネットでは学習会を積み重ねてきました。また、戦争をさせない1000人委員会や秘密保全法に反対する愛知の会の活動に積極的に関わるとともに、不戦ネットの運動の強化を目指していきたいと思ひます。

20年の特集号で各地・各団体からのメッセージをいただきましたが、韓統連（在日韓国民主統一連合）愛知本部からのメッセージを掲載できませんでしたので、今号で掲載します。

## 『不戦へのネットワーク』 結成20年に寄せて

アンヨンハシムニカ

みなさんのこの20年間の奮闘に心より敬意を表します。

皆さんと私たちの間はいつかなる時も「連帯」の二文字があったと思います。

70年代から具体化した『韓国反独裁民主化闘争』への支援は、政府レベルの経済的癒着にとどまらず政治・軍事的癒着への認識を深化させたことで、私たちの運動のレベルは『連帯』へと昇華したと思います。そしてそれは同時に日本と韓国の両民衆に当事者として闘いを求めたもの、それが日韓連帯運動ではなかったでしょうか。

80年5月に起きた光州民衆抗争こそは日米韓の三国の関係を如実に表すものとなりました。当事者としての受け止めがなされた後、私たちは双方が主体としての主体的な運動を続けることが求められたものでした。

私たち韓統連は我が半島の解放の命題を『自主・民主・統一』という理念に集約し、民衆が主導する統一運動の時代が幕を開けのために我が身を賭して北部祖国に訪れました。

そして2000年に南北政府レベルの統一時代の幕開けとなる「6・15南北共同宣言」を勝ち取りました。そして2002年には日朝間で「日朝平壤宣言」が結ばれるまでに至ったのです。朝鮮半島の統一が両国の民衆にとって共通の目標となり、私たち民衆が共に切り開いた地平です。

振り返ってみれば素晴らしいものではありませんか。反動の兆しが顕著になる日本社会の中でこれからは、私たちは言葉だけで表された宣言を具体的に一つ一つ実現していく、『果実を摘み取る時代』を築いていくこととなります。それはきっと素晴らしい時代でしょう。

私たち韓統連は皆さんを同伴者として今の時代を共に歩んでこられたこと心より誇りに思ひます。今後も共に頑張りましょう。